

1. 「2019年4月度
修習技術者研修会報告

2019.4.28
修習技術者支援委員会
委員補佐 川崎 靖子

2. 研修会概要

日時 平成31年4月13日(土)
13:00～19:00
主催 公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援委員会
会場 機械振興会館 6-65 会議室
基本課題 「業務遂行能力」
コミュニケーション研修会①

3. 研修会の内容

研修会 司会・進行	島崎 委員
開会挨拶	13:00～13:05 石附 委員長
研修会スケジュール、 目的、課題説明	13:05～13:10 島崎 委員
講演・ワークショップ 「最強のエンジニアになるた めの話し方実践研修」	13:10～14:30 講師：亀山雅司氏
休憩	14:30～14:40
講演・ワークショップの続き	14:40～16:40
まとめ	16:40～16:45 阿部 副委員長
休憩	16:45～16:55
修習技術者発表研究会	16:55～17:40 岡島 正和氏 (電気電子部門)
情報交流会	17:45～19:00

4. 参加者

今回の研修会は、技術士補、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者(修了者を含む)を対象とした修習技術者研修会 28 名の参加があった。(図 1)

参加者の技術部門は、電気電子、建設、機械、金属、上下水道等であった。参加者の居住地は、神奈川県、東京都、群馬県、埼玉県等の関東地区、および福島県、広島県等であった。

また、参加の動機はテーマ・講師に興味が多く、その他修習の一環、仕事に役立つ等であった。(図 2)

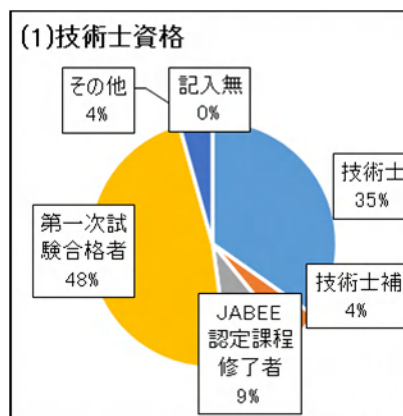


図 1 参加者プロフィール

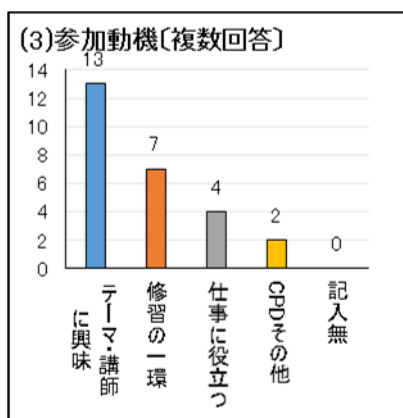


図 2 参加動機(複数回答)

5. 研修会

修習技術者支援委員会石附委員長が開会の挨拶(写真 1)と、修習技術者に求められる 3 つの基本修習課題「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」についての説明をした。今回の研修セミナーは「業務遂行能力」の「コミュニケーション」に該当する。

司会者である島崎委員が研修の目的、技術士の義務と責務(技術士法第四章)、その他注意事項の説明をした。続いて講演者である亀山講師の紹介と経歴について説明した。



写真1 石附委員長による開会挨拶

◆講演について

亀山講師の講演は、「最強のエンジニアになるための話し方 実践研修」についてであった。(写真2)

講師は原子力・放射線部門の技術士であるが、取得後、「何が正しいか型」説明により失敗した経験があり、この型の説明では関係を破壊する可能性があることを説明した。その後、「解決型」説明を取り入れ、ストレスが少なく効率的な業務遂行方法を確立した。

本講演は、ラポールを使った「解決型」説明を身に着けるための練習を中心に行われた。

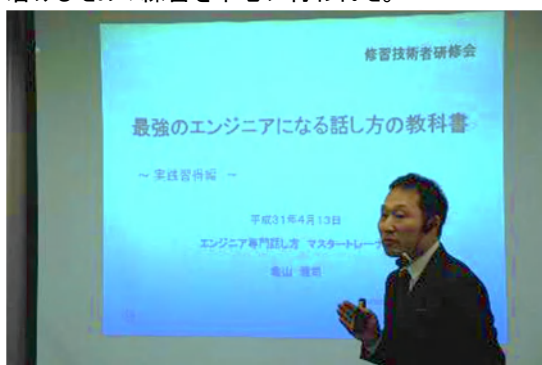


写真2 亀山雅司講師の講演状況

◆研修効果を高めるアンケート

講演を始めるにあたって、講師による独自のアンケートが実施された。アンケート項目は、「目的を意識している」や「話し方に自信がある」などの6つであり、1～10段階で答えるものであった。学習効果を見るために、研修後にも同じ項目に答えた。

◆ハートビート

講演の最初に、学習能力を上げるウォーミングアップとしてハートビートを参加者全員で実践した。本講演におけるハートビートとは自分の手および相手と

のタッチで音を出し、これを繰り返す動作である。

(写真3)



写真3 ハートビート

◆ワーク

本研修のワークは、実践、4人1組での振り返り、全員への共有の流れに沿って行われた。(写真4)



写真4 ワーク状況

◆ワーク(1) コミュニケーションを学ぶ目的は？

- ・何のために手に入れますか？
- ・手に入らない場合、どういう困った状態になりますか？
- ・手に入るとどう変わりますか？
- ・今日、絶対に手に入れるものは？

◆ワーク(2) ラポールの練習[共通点探し]

相手：「出身は、〇〇県です。」
自分：「〇〇県のご出身なのですね。友達も〇〇県の出身なのです！（〇〇県に関すること）」

2人1組になり、共通点を探して、会話を進めていくやり方を練習した。ラポールは“同じ”を口に出す

ことで生まれるものであり、共通の話題があると相手に対して親しみをもちやすくなると説明した。

◆ワーク(3) ラポールの練習[賛同する]

相手：「わたしは△△だと思います。」

自分：「あなたは△△だとお考えなのですね。」

2人1組になり、相手の考えを否定せず、会話を進めていくやり方を練習した。自身の考えを曲げたり、我慢したりすることではなく、相手の考えを尊重することが大切であると説明した。

◆ワーク(4) ラポールの練習[基本の動作①]

うなずきとあいづちが、無しの場合と、有りの場合の二通りの状態で、話をして、その違いを体験した。うなずきは、ほとんどの人が、うなずいているつもりになっていると説明し、15cm以上動かすことが大切なのだと述べた。また、30秒間見つめ合うなどの視線を合わせる練習を行った。

◆ワーク(5) ラポールの練習[基本の動作②]

基本の動作ができれば伝える力が高まると述べ、表情と姿勢による印象の違いを説明した。

簡単にできる姿勢の改善方法を説明し、参加者から立候補した代表者2名について、改善前と改善後の写真を撮影し、その効果を確認した。

◆ワーク(6) ラポールの試験[褒める]

この試験はコンビニに行き、初対面の店員を褒め、笑顔にさせることである。しかし、本研修ではそのような環境は存在しないため、参加者同士で3人以上の方を笑顔にさせることを試みた。過半数の参加者がこのことを達成させ、5人を笑顔にさせた方もいた。(写真5)



写真5 ラポールの試験

◆ワーク(7) ロールプレイ[上司にどう対応する?]

部長：「例の資料、A案が入っていないじゃないか！」

担当：「不要だって、先週の会議で言いましたよ？」

部長：「そういう覚えはない！」

担当：「ここにメモってあるので間違いありません。」

上記は、部長と担当が衝突している会話例である。相手と衝突せずに、どう答えれば、目的に沿った解決ができるのかを、4人1組になって上司、担当、観察者(2人)に分かれて実践し、観察者は、良かった点と改善点を共有した。

加えて、講師の実体験を基にした解決例の紹介があった。

◆まとめ

阿部副委員長より、本日の研修会で実践したラポールについて、自身の経験を事例として説明し、いかに大切なものであるかを述べた。本自身につけたことを、活用してほしいとのまとめがあった。(写真6)



写真6 阿部副委員長によるまとめ

6. 修習技術者発表研究会

修習技術者発表会では1件の発表があった。

◆発表

発表は、修習技術者(電気電子部門)の岡島正和氏による「我が家の建て替え時の省エネ対策」で、発表内容は以下のとおりであった。

家の建て替えにあたり、エネルギーを効率よく使うためには、どのような対策を実施するのが効果的であるかを検討した。

まず、家庭のエネルギー使用の実態と、CO₂ 排出内訳を調査した。エネルギー消費で大きいのは、照明・家電他、給湯器、冷暖房設備の順である。また、家庭から排出される CO₂ は、照明・家電他、自家用乗用車、冷暖房設備となっている。そこで、省エネルギーの方策として、「太陽光発電の導入」や「窓への複層ガラスと断熱サッシの導入」などを提案した。提案項目から、実情に合致したものを選択し、実行・評価した。実行した項目の一つに、「窓への複層ガラスと断熱サッシの導入」がある。窓ガラスを複層ガラス(ペアガラス)に変更することで断熱効果を得られ、冷暖房費の削減につながった。この他にも、断熱材サッシや大きな窓の導入などを行い、電気量、CO₂ が約 5%低減するなどの効果を得られたことについて発表があった。(写真7)

質疑応答では参加者から、効果(5%低減)の計算方法や導入した窓の大きさの決め方などがあった。その他にも多くの質問に対して、発表者は回答した。亀山講師から、「にこやかな顔、流暢な話し方で大変良かった」と講評があった。

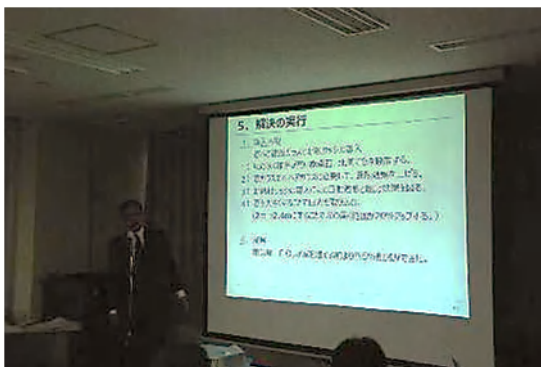


写真7 岡島正和氏の発表

7. 情報交流会

情報交流会には、講師および発表者を囲んで、講演や発表内容などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。また、今後の修習活動に向けた積極的な情報交換が行われた。(写真8)



写真8 情報交流会の様子